

9月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎（23日）モロッコによるAU加盟申請書の提出
- ◎（24日）次期衆議院議員選挙の選挙キャンペーンの開始

<内政・政局・治安>

1 内政

（1）次期衆議院議員選挙の選挙人登録

（ア）1日に発表された内務省発表によれば、（全人口約3400万人のうち）1570万2592人が、10月7日に予定されている次期衆議院選挙のための選挙人登録を行った。このうち約55%が男性であり、女性は約45%、また、年代別では、登録された選挙人の30%が35歳未満、43%が35歳から54歳、27%が54歳以上となっている。

（イ）また、この内務省発表によれば、登録した選挙人の約55%が都市生活者であり、約45%が地方村落生活者である。

（2）次期衆議院議員選挙の選挙キャンペーンの開始

（ア）24日、10月7日に予定されている衆議院議員選挙の選挙キャンペーンが始まった。今次衆議院選挙では、6992人の候補者が立候補しており、全国各地で3万9403の投票所が設置される予定。選挙キャンペーン期間は9月24日から10月6日深夜までであり、投票は10月7日午前8時から午後7時まで行われる。

（イ）衆議院の全議席395議席中305議席は92の各地方選挙区から比例代表で選出されるが、残り90議席中60議席は女性の候補者、30議席は40歳以下の若年層の候補者が全国区の選挙区から比例代表で選出される。更なる女性議員の増加のために、今次選挙から、これまで若年層男性候補者のみに割り当てられた30議席についても、女性の若年層候補者の立候補が可能となった。

（ウ）また、これまで投票手続における選挙同盟は行われていなかったが、今次選挙から選挙同盟を実施することが可能となった。この結果、3政党からなるFGD（民主左

派連合)、2政党からなるアル・アハド同盟の2つの選挙同盟が結成された。なお、30政党が今次選挙に立候補者を擁立している。このうち20政党は個別に政党毎に候補者を立てている一方、5政党は選挙同盟制度を利用している。

(3) 参議院補欠選挙の実施

8日、選挙違反で無効となった参議院10議席の補欠選挙が行われた。補欠選挙の結果、P Iが5議席、P A Mが3議席、P J D、M P、アル・アマル党が各々1議席を獲得した。なお、無効となった全議席数は15議席であり(このうち5議席分については7月に補欠選挙を実施済み)、その内訳は7議席(P I)、2議席(P J D、P A M)、1議席(R N I、M P、C G E M、S N D(国家民主労働組合))である。

(4) 国王主宰閣議の開催

26日、国王主宰閣議がタンジェで開催され、ストライキ権組織法案、アマジグ語公式化実施組織法案及びモロッコ言語・文化国家評議会にかかる組織法案が審議され、採択された。これを踏まえ、これらの法案は今後、衆参両院で審議される予定。また、この国王主宰閣議において、ブーサイド経済・財政大臣が2017年予算案の骨子を説明した。

2 治安

(1) 3名からなるテロ細胞の逮捕(ウジュダ、カサブランカ及びフェズ)

(ア) 7日、中央司法捜査局(B C I J)は、ウジュダ、カサブランカ及びフェズで活動していた過激主義者3名からなるテロ細胞を逮捕した。逮捕者のうち1名は、テロ対策法に基づき現在服役中の元シリア・イラク戦闘員の兄弟であった。

(イ) 容疑者が準備していたテロ計画では、シリア・イラクで活動するI S I L関係者と関連する者と緊密に連携し、ウジュダ、サイディア(ウジュダ北部)、フェズ、デブドゥ(北東部タウリルト地方)の重要施設を特に標的としていたことが判明した。家宅捜査により、爆発物の製造に用いられる化学物質(硝酸アンモニウム、石炭、硫黄、アルミニウムの屑、木材、砂糖、燃料及び潤滑油から合成されたもの)と鉱物粉末、圧力鍋、電線、大量の釘、電流計、プラスチックパイプ、刃物、斧及びI S I Lの旗が押収された。同テロ細胞のメンバーは、モロッコにてテロを実施した後、モロッコ東部の国境を経由してI S I Lリビアに参加する計画を有していた。

(2) 3名のテロリスト逮捕(タンジェ及びムディック)

(ア) 16日、B C I JはI S I Lの指示を受けていた3名からなるテロ細胞を解体した。逮捕者は、タンジェ及びムディックにおいて活動し、I S I Lの指示を受けて国内でテロを実施しようとしていた。取調べの結果、当該細胞はモロッコの治安と安定を破壊するための非常に重大なテロ行為を準備していたことが判明しており、このテロ行為によりモロッコをI S I Lの一つの州として宣言する目的があった。

(イ) シリア・イラクへの渡航を企てていた当該細胞のリーダーは、自身もモロッコに

対する脅迫を含む複数のビデオを拡散していたモロッコ人戦闘員から、I S I Lの対外活動ユニットの影響力のある指導者の一人にコンタクトするよう命じられていた。当該細胞のリーダーは、このI S I L指導者から国内の重要施設、治安機関、観光地を狙ったテロ行為の準備を命ぜられるとともに、対I S I L同盟に参加する国々の外国人に対する攻撃を企てていた。この者はまた、爆発物の製造の分野で高い知識を有しており、I S I L指導者から財政的・ロジ的支援を得ていたことが判明している。同様に、この者はムディック市の教育施設の実験室から爆発物製造に必要な化学物質と実験設備を盗んでいたことがわかっている。

(3) 1名のテロリスト逮捕（メクネス近郊）

(ア) 21日、BCIJはメクネス近郊のムーレイ・スマイル・ムル・エル・キファンヌにおいて、国内でのテロの実行を企てていたI S I Lに関するテロリストを1名逮捕した。

(イ) 取調べの結果、逮捕者はI S I Lの主義に賛同し、遠隔操作による爆発物の取り扱いに精通、国内の戦略目標あるいは観光施設等に対するテロ攻撃を行うために爆発物の製造に必要な原材料を得ようとしていたことが明らかとなっている。

<外交・国際関係>

1 西サハラ関係

(1) ガルガラト情勢にかかるハッサド内務大臣発言

(ア) 1日、ハッサド内務大臣は、閣議後の記者会見において、ガルガラト地域における密輸入と不正取引を一掃するためのオペレーションは、MINURSOの調整を経て決定された目的に従い継続されるだろうと述べた。同大臣はまた、このオペレーションは、ドラッグやその他の密輸入品の不正取引が拡散する当該地域における治安の向上を目的に行われている旨述べつつ、これはモーリタニアへの往来が（あまりに）自由であるためであると語った。同大臣は同様に、当該オペレーションは第1軍事協定を始めとする停戦関連の措置を厳格に遵守しつつ実施していると述べた。

(イ) ハルフィ情報コミュニケーション大臣兼報道官は、閣議後に発出したコミュニケで、モロッコ政府は国王を中心としてあらゆる力とすべての国民を結集し、挑発と扇動に立ち向かうと述べた。

(2) ジャマイカによる「RASD」承認撤回

(ア) 14日、ジャマイカ外務・貿易省は、ジャマイカが「サハラ・アラブ民主共和国（RASD/SADR）」への承認の撤回を決定したとするコミュニケを発表した。このコミュニケは、カリブ諸国を訪問中のブリタ外務・協力大臣付特命大臣に手交され、この中で、ジャマイカは、その中立的な立場及び現在進行中の国連プロセスへの支持が、この長く続く地域紛争に公正かつ平和的な解決を導く国際社会の努力に対して強いメッセージを送ることを真剣に期待すると述べている。

(イ) ジャマイカは1979年9月に「RASD」を承認したが、モロッコ外務・協力省はその承認撤回の決定は正式に国連に通報されるとしている。

2 アジア関係

(1) ASEAN友好協力条約の署名

(ア) 6日、ラオスで開催中の第28回・第29回ASEAN首脳会議の-marginで、ブリタ外務・協力大臣付特命大臣がASEAN友好協力条約（TAC）に署名した。モロッコはアラブ及びアフリカにおいてTACに加入した初めての国となる。

(イ) この機会に、ブリタ特命大臣は5日、サルムサイ・コンマシット・ラオス外務大臣と会談し、とりわけ二国間関係、国家問題にかかる最新の状況、モロッコ・ASEAN関係の進展について協議した。

(2) 杜青林 (Du Qinglin) 中国人民政治協商会議全国委員会副主席のモロッコ訪問

(ア) 19日、ベンキラン首相は杜青林・中国人民政治協商会議（CPPCC）全国委員会副主席と会談し、モロッコ・中国関係や共通の利益にかかる諸問題について協議した。この会談で、両者は、貿易や観光を始めとする様々な分野におけるモロッコ・中国関係の発展に満足の意を表明した。これは、特にモハメッド6世国王の訪中以降顕著で

あり、5月の国王訪中では、両国間の戦略パートナーシップの設立にかかる共同声明が調印された。この会談ではまた、モロッコは中国との外交関係を設立した初めてのアラブ・アフリカ諸国の一つであることが強調され、長きに亘る友好関係を歓迎した。

(イ) 杜青林CPPCC全国委員会副主席はベンシャマシュ参議院議長とも会談したし、ベンシャマシュ議長は会談の中で、モロッコ・中国議会フォーラムの設立を要請したほか、モロッコ議会とCPPCCの強固な結びつきを強調した。ベンシャマシュ議長は、特に中国・アラブ協力フォーラムや中国・アフリカ協力フォーラムを通じた様々な分野における中国の役割を歓迎した。また、ベンシャマシュ議長は西サハラ問題に関する中国の肯定的な立場を歓迎するとともに、本件にかかる公平でコンセンサスのある政治的解決に対するモロッコの努力に対する中国の支援を歓迎した。

(ウ) 杜青林CPPCC全国委員会副主席はラシャディ衆議院副議長とも会談し、ラシャディ副議長に対し、特に産業、インフラ、金融、技術移転及び訓練の分野におけるモロッコの大規模プロジェクトに協力する意思を示した。杜青林CPPCC全国委員会副主席はこのほか、エル・オマリ真正と現代党(PAM)党首とも会談している。

3 アフリカ関係

(1) モロッコによるAU加盟申請書の提出

23日、モロッコは、AUに再加盟するための申請書を提出した。モロッコは自身の領土の一部とみなしている「サハラ・アラブ民主共和国(RASD/SADR)」のOAU加盟に反対して、1984年、同機関から脱退していた。モロッコはAU復帰を表明していたが、この表明から2か月後に正式申請を行った。

(2) ガボン大統領就任式典へのベンキラン首相出席

(ア) モハメッド6世国王は、ボンゴ・ガボン大統領就任式典に同国王の代理としてベンキラン首相を出席させることを決定した。ベンキラン首相は、26日に行われた国王主宰閣議と国王主催再生エネルギー関連作業グループに参加した後、同会合が開催されていたタンジェを出発した。

(イ) 24日、モロッコは、アリ・ボンゴ大統領の再選を有効と判断した23日付ガボン憲法裁判所決定を確認していた。モロッコ外務・協力省コミュニケはまた、この重要な決定がアフリカの兄弟国における大統領選挙プロセスを終結させたと述べている。

4 欧州関係

(1) メズアール外務・協力大臣とヴァルストローム・スウェーデン外務大臣の会談

7日、メズアール外務・協力大臣はヴァルストローム・スウェーデン外務大臣と会談を行った。会談後の記者会見で、メズアール大臣は、両国が、安定、平和及び開発支援をもたらす模範的な関係を具体化する共通の意思を共有する旨述べた。また、同大臣は、地球規模課題に対する共有の理解を共有している旨強調しつつ、両国の関係は順調であ

る旨述べた。更に、同大臣は、2017年1月から安保理非常任理事国となるスウェーデンに対し、課題や紛争の解決を助けるため、付加価値をもたらすような役割を果たして欲しいと述べた。両大臣はまた、11月にマラケシュで開催されるCOP22についても協議した。

(2) モハメッド6世国王とメルケル独首相との電話会談

28日、モハメッド6世国王はメルケル独首相と電話会談を行い、移民問題について協議した。モハメッド6世国王はこの機会に、在独モロッコ人の特定と本国への帰還を加速させるために、ハッサド内務大臣を独に出張させることを決定した。メルケル首相は、国王からの明年初頭のモロッコ公式訪問に対する招待に好意的に返答した。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
9月1日	ポルトガル	ラバハ設備・運輸・ロジスティクス大臣	アナ・パウラ・ヴィトリノ海洋大臣との会談（港湾協力覚書の締結）、ペドロ・マルケス企画・インフラ大臣との会談（国際陸運にかかる議定書の締結）
9月5-6日	ラオス	ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	第28回・第29回ASEAN首脳会議出席、サルムサイ・ラオス外務大臣との会談
9月7日	EU	ハッサド内務大臣	アブラモプロス移民・内務担当委員との会談
9月8日	仏	メズアール外務・協力大臣	オランド大統領表敬
9月19日	米国	ビルー在外モロッコ人・移民問題担当大臣	難民及び移民に関する国連サミット出席
9月19日	米国	エル・ハイティ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣付環境担当大臣	NY気候ウィーク出席

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
9月2日	オマーン	アル・ブーサイディ外務次官	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談, 第4回モロッコ・オマーン政策協議出席
9月6-7日	スウェーデン	マルゴット・ヴァルストローム外務大臣	メズアール外務・協力大臣との会談, ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
9月8日	ギリシャ	ディミトリス・マルダス外務副大臣	ベンキラン首相との会談
9月8日	モーリタニア	シディ・ウルド・サレム高等教育大臣	ダウディ高等教育・科学研究・幹部養成大臣との会談
9月13日	全アフリカ議会	ロジャー・ンドコ・ダン議長	タルビ=アラミ衆議院議長との会談
9月19-20日	中国	杜青林 (Du Qinglin) 中国人民政治協商会議 (CPPCC) 全国委員会副主席	ベンキラン首相との会談, ベンシャマシュ参議院議長との会談, ラシャディ衆議院副議長との会談, エル・オマリPAM党首との会談
9月29日	独	ティリッヒ連邦参議院議長	ハッサド内務大臣との会談, ビルー在外モロッコ人・移民問題担当大臣との会談

(了)